



AIN GROUP

相談対応から副作用の可能性を発見し、
アセスメント、医師への情報提供、
患者フォローまでの一連の流れに
関わることができた事例

株式会社 あさひ調剤
アイン薬局 上尾店
野田 由貴

■ 処方箋応需の状況

主応需先は一般総合病院で、内科、整形外科、麻酔科、脳神経外科等の処方せんを応需している。

面処方も多く、月間100以上の医療機関から処方せんを受け付けている。

■ 在宅医療への積極的な参画

施設および個人の訪問薬剤管理指導をおこなっており、施設・在宅の処方が全体の約10%を占めている。

■ 地域活動の実践

地域のかかりつけ薬局になることを目指し、健康サポート薬局としての活動などさまざまな取り組みを行っている。

■ 同一患者に複数回の服薬指導を実施する

- 服薬指導をした患者の経過確認ができるよう、次回来局時に同じ実習生が対応できるように工夫している。電子薬歴の申し送りメモを活用している。

■ 服薬情報提供書の作成に携わらせる

- 服薬指導を担当した患者に限らず、服薬情報提供書を作成する機会があれば、実習生が携われるようにしている。
医療機関との連携を学べるよう、機会があれば1週目などの早い段階でも実施している。

- **さまざまな薬剤師が服薬指導を担当し、アセスメントや患者対応を幅広く学ぶ機会を設ける**
 - 指導薬剤師を中心として、在籍する9名の薬剤師全員が実習生の服薬指導をフォローする体制としている。
 - これにより、実習生はさまざまな薬剤師からコミュニケーションや、アセスメントを学ぶことができる。
- **情報の検索方法を学ぶ**
 - 答えを与えるのではなく、まず自分で調べる機会を設ける。実習生自身が調べることにより、どこでどのような情報を入手できるのかを実践的に学ぶ機会とする。
 - 調べた情報を患者対応に活用できる機会があれば積極的に参加させ、情報収集から情報の活用までの一連の流れを経験できるようにする。

■ 服薬フォローアップの実践

- 当薬局では、新規処方や薬の使用に不安がある患者さまを中心に、電話による服薬フォローアップを行っている。
- 実習でも、服薬フォローアップの前後を含めた一連の流れに携わる機会を設けている。

服薬フォローアップの流れ

- ① 服薬指導
- ② アセスメント、プロブレムの解決に向けた考察
- ③ 服薬フォローアップ
- ④ (必要に応じて)服薬情報提供書による情報提供

■ 患者背景

60歳代、女性

疾患名 : すべり症

経過 : 数年前から疼痛緩和治療を実施している。

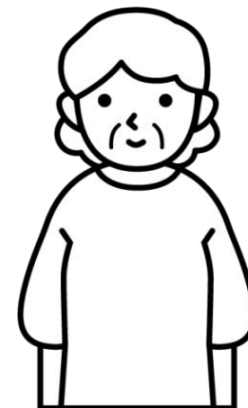
3か月前からフェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤を投与していた。
効果が得られなかったため2mgから1mgに減量し、その後、処方中止となった。

併用薬 : 他院精神科より処方されたロラゼパム錠、ベンラファキシン塩酸塩カプセル等を服用中であった。



フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤を中止して2日後に、
患者様のご家族より電話相談

テープを中止してから、睡眠薬を飲んでも
イライラして眠れないようです。



■ アセスメント

実習生自身がアセスメントを実施した。


併用注意（フェントス[®]テープ添付文書より抜粋）

| 薬品名等 | 機序・危険因子 |
|--|------------------------|
| 中枢神経抑制剤 フェノチアジン系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤 バルビツール酸系薬剤 等 | 相加的に中枢神経抑制作用が増強する |
| セロトニン作用薬 選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI) セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI) モノアミン酸化酵素阻害剤 等 | 相加的にセロトニン作用が増強するおそれがある |

フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤の添付文書に、**中枢神経抑制剤およびセロトニン作用薬との併用で相加的に作用が増強する旨の記載があった**。実習生は、この相互作用が本症例に関連しているのではないかと考えた。

■ 医薬品情報の収集

添付文書の記載から考察した内容をもとに、実習生がフェントス[®]テープの製造販売元に問い合わせを行った。

- 
- 過去に同様の事例報告はない。
 - 基本的に複数の向精神薬とフェントス[®]テープを併用することは少ないが、向精神薬の作用が増強していた可能性は十分に考えられる。
 - 退薬症候の可能性も考えられる。
 - 処方医が向精神薬の服用中であることを知らなかった可能性があるのではないかと。



実習事例 (4)服薬情報提供書の作成

■ 医師への情報提供

処方医への情報提供が必要と判断されたため、実習生に服薬情報提供書を作成していただき、指導薬剤師の確認を経て処方元に提出した。

服薬情報提供書(実習生が作成した内容より抜粋)

平素よりお世話になっております。フェントス[®]テープによる影響についてのご相談です。

先日フェントス[®]テープの処方中止となりました患者様のご家族より、眠剤やトフラニール[®]錠を服用してもイライラして眠れないとお問い合わせがありました。

患者様は以前より他院精神科からイフェクサー[®]SRカプセル、ワイパックス[®]錠、マイスリー[®]錠、ベルソムラ[®]錠が処方されており、フェントス[®]テープの添付文書には中枢神経抑制剤、セロトニン作用薬との併用でそれらの効果を増強するため併用注意と記載されております。

製薬会社へ問い合わせを行い確認したところ、フェントス[®]テープによる向精神薬の作用増強がなくなった可能性と、退薬症候の可能性があると回答をいただきました。

患者様には早めに受診するようお伝えしましたので、次回受診時にご念慮ください。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、宜しく願いいたします。

■ 経過の確認

服薬情報提供書を提出したのち、患者さまが受診し来局された。
実習生が対応を実施し、患者さまに経過を確認した。



テープ中止直後はイライラして眠れなかったが、その後、数日で回復したことが確認できた。

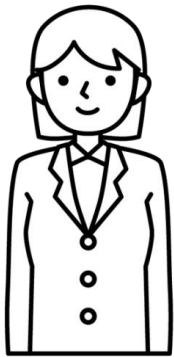
実習生の成果報告書より抜粋

明確な原因については確認することができなかったが、ベンゾジアゼピン系やSNRI系の薬剤を併用することで、それらの作用を増強させてしまう可能性があることが分かった。
また、服用中止により睡眠へ影響が出ることがわかった。

実習事例の成果

- 実習期間中に、医療機関との連携や副作用等のアセスメント、医薬品情報の収集等のひとつひとつの業務を実施する機会があった。
しかしながら、本事例で、1人の患者に対する一連の流れとして経験させることができた点が有意義であった。
- また、実習後半にこのような症例に携わらせることができたため、薬局実習の総まとめ的な効果も感じられた。

実習生の感想



経過を見届けることができ良かった。
今後も学びを深めて、患者さんから信頼される薬剤師になりたい。

■ 服薬フォローアップの実施について

- 服薬フォローアップは、実習生がひとりの患者を担当する経験となり、経過確認など患者との連続的な関わりのなかで薬物治療を実践する学習の有効な手段となる。
- 電話による服薬フォローアップでは、実践中に薬剤師がサポートすることが難しい場合がある。実習生には服薬フォローアップのプランニングをしていただき、実習生が計画した質問事項や指導内容に沿って薬剤師が電話対応を実施する、スピーカーフォンを活用するなど、よりよい実習方法を検討する必要がある。

■ アセスメントの実践について

- 実習生にとって服薬指導中にアセスメントを行うことは難しい。症例によっては、服薬指導後にアセスメントを実践する時間を設け、服薬フォローアップや医療機関への情報提供の実践につなげると、ひとつの症例にじっくりと向き合う機会となる。

■ 服薬情報提供書を作成する経験について

- 今後も積極的に服薬情報提供書を活用する場面に携わっていただき、他職種との連携の実際を学べるようにしたい。



AIN GROUP